



都市医師会 だより

北見医師会

「シッコ(sicko:病気)」 自主上映会後の市民の声

北見医師会理事 大内博文

平成20年3月13日（木）午後6時30分から北見芸術文化ホールにて、ドキュメンタリー映画「シッコ」自主上映会が北海道医師会、日本医師会の協力を得て北見医師会の主催で開催されました。この映画はアメリカの医療制度の実態を描いた作品で、日本の医療制度改革の方向性に警鐘を鳴らすものであり、監督は「ボウリング・フォー・コロンバイン」「華氏911」のマイケル・ムーア監督です。

当日は210名の入場者があり、2時間の上映時間にもかかわらず途中退席者はたった1名で、医療問題への関心の高さが伺われました。映画の解説は他に譲るとして、われわれ北見医師会では上映会終了後、入場者にアンケートをお願いし164名から回答が得られました。

1. 「お金のある人とそうでない人では、受けられる医療行為が違う」というアメリカ合衆国の実態をどう思いますか？

- 大いに問題がある・・・143名
- 少し問題がある・・・15名
- あまり問題はない・・・0名
- 全く問題はない・・・2名
- わからない・・・2名
- 無回答・・・2名

2. 日本の国民皆保険制度の維持を望みますか？

- 望む・・・143名
- 望まない・・・4名
- わからない・・・6名

- 状況によって異なる・・・10名
- 無回答・・・1名

3. 日本の医療はアメリカ型に変えられようとしています、その事について

- 賛成・・・5名
- 反対・・・143名
- どちらとも言えない・・・11名
- わからない・・・4名
- 無回答・・・1名

このアンケートの結果から、アメリカ合衆国の医療制度に問題があると感じ、日本の国民皆保険制度の維持を望み、日本の医療制度がアメリカ型に変えられるのは反対だと答えた人は129名(78.7%)に上りました。これに対して、アメリカ型の医療制度に変わること賛成した人は、たった5名(3%)でした。医療関係者は40名くらいでしたので、多くの市民が国民皆保険制度の維持を望んでいることが示されました。

そして、この映画を見た方からは、つぎのような感想や意見が寄せられました。53名のうちの一部を手を加えずそのまま載せたいと思います。

- *****
- ・映画ありがとうございました。アメリカに追従するこの国が情けなく思います。この国の近未来をみたような気がして背筋が冷たくなりました。国の政策によってこんなに違いが出てくると言うことが実によくわかりました。
 - ・アメリカは恐ろしい国になってしまった。国と保険屋がぐるになっている。
 - ・入院費用が払えないという理由で路上に捨てられる国アメリカに憤りをおぼえた。
 - ・アメリカの医療がこのようなひどいことになっているとは思っていませんでした。しかし、ここ最近では日本も同様な状況になっていると思います。
地域格差はどんどん広がっていて、安心して生活ができない状況です。医師会としても是非そういった状況の改善のため、がんばってください。
 - ・大国にあっても国民の健康を守れないのは貧困といえる。9.11の救命士の人達が敵国で手厚い医療を計っていたのは印象的であった。
 - ・「貧困大国アメリカ」を読んで、アメリカの医療の問題点のある程度理解していましたが、映像を見るとまた、一段と日本の良さを感じました。
 - ・この映画を上映しようとする日本の医師会はまだ安心だと思えました。
 - ・安定した医療制度がほしい。老後が心配。
 - ・4月から政府がやろうとしている後期高齢者医療制度は差別を持ち込み、「金のない者は医療を受け

- られなくする」ことを目指すもの。絶対許せない。
- ・アメリカのようになってほしくない。4月からの後期高齢者医療制度は撤回を！
 - ・皆が公平に医療が受け続けられるように皆が監視（関心を持つ）しなければならない。
 - ・日本の保険医療制度は破綻に近い財政状況です。海外の制度が維持されている経済的バックボーンは何なのだろうか？
 - ・イギリス、フランス、キューバがなぜ医療費を無料にできるのか是非知りたいと思います。医師会がもっと国によびかけて、診療報酬のアップや医療体制の改善にむけての活動をおこしてほしい。実態があまりにもわからない状態で未知だと思う。
 - ・日本の皆保険制もお金の問題で崩れそうな今日だと思います。キューバやフランスのようにならないのでしょうか。助け合いの心は大切ですが、それが政治を動かさなければダメでしょう。
 - ・知らないということは恐ろしいことだと思われ知らされました。世界にはさまざまな制度があることそして日本の制度が決して良いものではないこと、もっと良い制度になることを願ってやみません。
 - ・アメリカはおかしいと思う。そんなアメリカの後を追うのをやめないと二の舞になるかも知れませんよ。皆保険制度は、日本の誇りでもあると思います。企業の食いものにしてほしくないです。フランスのように国民が声をあげていかないとだめだと思います。とてもいい映画で勉強にもなり、今の弱い者いじめの日本でも希望ができました。
 - ・お金があるなしにかかわらず、誰もがいつでもどこでも必要な医療が受けられるように国が保障することが大切なことだと思います。人間が生きていくうえで何かこまったことがあった時にこそ守ってくれるものがあって初めて安心して暮らせると思います。一つしかない大切な生命を守るためにも絶対に国民皆保険制度をなくしてはならないと強く感じました。
 - ・現在でもこのようなことが日本国内でも起こっていると思う。地方では良い医療がうけられないのが現状。
 - ・人が人間らしく生きる権利を全ての国民に保障する国であって欲しいし、守らなければならないと強く思いました。
 - ・いつのまにか日本の医療もアメリカ型へ進んでいると思いました。医師のモチベーションの上がるような十分な医療費が必要です。
 - ・日本での国民皆保険の制度がもっと充実し、医療従事者がもっとより良く働ける環境になるようにと、この映画を観て思いました。
 - ・医師会の危機感が伝わりました。主義主張は別に

して、ムーアが言っているように、何を大事に大切にしなければならないのか？今後とも正しい行動を勇気を持って！

- ・映画をみてよかった。全市民にみてもらいたかった。医師会のみなさん、がんばって下さい。



アンケートの結果はある程度予想できましたが、市民からの医師会に対する期待やエールは全くの予想外で大変嬉しく思いました。このことは、今後市民に医療に関する正しい情報を伝え、市民と連携して地域医療を充実させるわれわれ医師会の活動に大きな力を与えてくれるものとなりました。

なお、この映画は平成20年4月4日にDVDが発売され、同時にレンタルも開始されています。医師会員のみならず、日本国民全員にぜひ見ていただきたい映画だと思います。

*この映画の上映会ならびにアンケートの集計に協力をいただいた、米谷忠良北見医師会事務長と事務局スタッフに感謝いたします。

